



どじやっつるの？ おびひろの除雪

地区懇談会開催結果

市長が市内各地区に出向き、市民の皆さんと一緒に帯広のまちづくりを考える「地区懇談会」を開催しました。いただいた意見の一部を紹介します。

問い合わせ 広報広聴課（市庁舎3階、☎65・4109）

昨年10月29日(土)～11月26日(土)にかけて、「どうやってるの？おびひろの除雪」をテーマに市内8会場で実施し、189人が参加しました。

主な意見（抜粋）

懇談会では「除雪実施計画」の内容を基に、現状の除雪体制や除雪に要する時間・費用などを説明しました。参加した皆さんからは具体的な提案をいただくなど、有意義な意見交換ができました。

- ・ 除雪の質を向上させるため、除雪車両に、会社名、運転者名を記載したプレートを張るべき。
- ・ 除雪の苦情ばかりでなく、除雪業者を評価することも必要。表彰制度を設けても良いのでは。
- ・ 特に生活道路の除雪が悪い。

- ・ 発注した業者への除雪業務の検証を市がきちんと行うべき。
- ・ 除雪業者によって、仕上がりにばらつきがある。除雪業者は、降雪の前に現場を確認し、危険箇所や通学路などを把握しておくべき。

市が行う除雪の仕組みを町内会に説明することが大切。ぜひ検討してほしい。

除雪情報の提供を「火災情報」のように、電話の自動音声案内で聞けるようにしてほしい。

除雪業者が変わると、スムーズに除雪が行われない。危険箇所などの引き継ぎがなされていないのではないかと。

学校周辺の雪山は特に危険。子どもたちの安全のためにも、優先的に撤去すべき。

小型除雪機械を貸し出すなど、パートナーシップ除排雪制度をもっと利用しやすいように見直してほしい。

除雪に関する新たな取り組み

意見を反映



●縦30×横35センチメートルの看板を全ての除雪車に設置しました。看板には「除雪ブロック名」「番号」「帯広市委託車」を表示しています。

●市ホームページのトップページに、「除雪情報」のページへのバナーを設置しました。除雪状況や出動予定をリアルタイムでお知らせしています。



●平成29年度から小型除雪機械貸出事業の実施を予定しています。

このほかにも、さまざまな見直しを検討・実施していきます。

問い合わせ 道路維持課(南町南6線46、☎48・2322)

皆さんにお願いしたいこと



- ▷ 路上駐車はしない
- ▷ 道路に物を置かない
- ▷ 除雪車には近づかない
- ▷ 雪を道路や川に捨てない
- ▷ 玄関・車庫前の除雪は各家庭で
- ▷ 不要不急の問い合わせは日中に

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

三月に思うこと

帯広市長 米沢 則寿



で分かりやすく、速やかに意志を決めるには効率的と言えます。しかし、物事を考える場合において、すべてが二者択一で解決できるものばかりではありません。

私たちは、とかく、これまでの常識や価値観にとらわれて、表面的な事柄や前例踏襲などの既定路線の選択肢の中だけで判断してしまいうなど、本質的な部分を見落としがちです。従来の視点とは異なる位置から広く物事を捉え、本質は何か、他の選択肢はないか、と自問する「第三の視点」が大切なのではないのでしょうか。

早いものでもう三月になります。ところで、皆さんは、数字の「三」から何を連想されますか。

「三日坊主」「石の上にも三年」「三人寄れば文殊の知恵」などのことわざや、「衣・食・住」「金・銀・銅メダル」「過去・現在・未来」などの物事を三つ並べる表現など。私たちの身近には、「三」にまつわる言葉が多くあることに気付かされます。お年玉やご祝儀などは奇数の金額を包むなど、古くから日本では奇数が好まれてきたようですが、中でも、二では少なく四では多い、三がちょうどいい、という具合に、「三」は昔から、私たちにとって収まりのよい、なじみ深い数字として扱われてきたのかもしれません。

私たちが、普段、物事を判断するときによく使っている「あれかこれか」「イエスかノーか」などの二者択一の考え方は、シンプル